

GREEN RADAR

全農長野県本部情報 / グリーンレーダー



2月の豪雪による被害状況

特集

2014豪雪災害に伴う 全農長野県本部の取組み

A-Front

平成26年度のスタートにあたって

A-Reports

- ・春の農作業シーズン到来！安全啓発活動もスタートします
～安全シールでの注意喚起も進めます～
- ・アルストロメリアの県下出荷規格統一事業の成果を確認
～「JA長野県アルストロメリア合同産地フェア」で高い品質評価～
- ・食農教育で農業への理解を醸成
～JA長野県食農教育推進研究会でJAみなみ信州竜丘支所川路事業所が優良組織に選出～

4

Vol.419
APRIL 2014



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

平成26年度のスタートにあたって

全農長野県本部 県本部長 高木幸一郎

各地で花の便りを聞く季節となりましたが、春は別れと出会いの時期でもあります。平成26年3月末に全農長野県本部では21名の職員が退職し、4月より新たに11名の新採用職員が入会しました。人は毎年替わっていきますが、我々職員には、守るべき繋げるべき理念の継承と、時代を先取りした新しい発想での業務展開が期待されています。

さて、平成25年度は、春先の大凍霜害、夏場の高温、台風襲来、そして、2月の豪雪等かつてない気象災害が発生し、長野県農業総体で100億円を超える大きな被害となりました。あらためて、被害にあわれた産地の皆様にお見舞い申し上げます。とりわけ2月豪雪では、長野県内で1万棟を超える農業用ハウス施設が倒壊し、現時点で80億円を上回る被害となり、

農業生産への影響が心配されます。

JAグループとして最大限の支援策を進めています。生産者の営農再開と一日も早い復旧のため、全農長野県本部として苗や資材の確保はじめ独自の特別支援対策により全力で復旧を進めています。

平成25年度全農長野県本部の事業は、度重なる災害、飼料と資材と燃油の高騰、競争の激化など厳しい環境にありましたが、集荷対策、安定供給、安定販売に努めた結果、取扱高は計画を上回る3、170億円の見通しとなりました。一方で、農家経営を守り生産を確保するため、更なる生産・物流コスト削減と競争力強化が求められています。

迎えた平成26年度は、エネルギー基本法と原発再稼働問題、TPP交渉と並行協議、新農政スタートと農業・農協改革など、今

後の日本、農業の行く末を決める大きな動きが前半に集中します。

また、金融不安やウクライナ情勢など世界経済の先行きが見えない中、消費税引上げ後の景気動向が心配されます。グローバル化の行き詰まりを感じる昨今、生産者と消費者との連携強化と地域の特徴を生かした日本型農業こそ危機の時代を切り開く活路であり、特に、中山間地でも高齢者でも規模が小さくても結集すれば大きなブランドができる長野モデルを内外に示していくべき時です。

昨年は、お客様・生産者との信用・信頼、安全・安心を軽視した信じられない食品偽装やごまかしが発生しました。「1つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300の異常が存在する。」と言われます。私たち全農長野県本部は現預金管理、

子会社管理の改善計画を進めるだけでなく、職場環境や業務を幅広く見直し、危機感と対応を共有しなければなりません。

系統事業は総合力と系統結集による成果の発揮が強みです。JAグループ職員として誇りと責任を持ち、組合員、農業、地域づくりのため、JAとグループ会社とともに全農長野県本部に与えられた責務を果たすことを皆様と確認し、年度はじめのメッセージとさせていただきます。

平成26年4月1日

本部長 高木幸一郎



特集

2014豪雪災害に伴う全農長野県本部の取組み



倒壊したパイプハウス

❖ 雪害発生当時

平成26年2月7日(金)～8日(土)の大雪に続き2月14日(金)～16日(日)と2週続いた記録的な大雪は、開田高原115cm、軽井沢99cm、飯田市81cmと、いずれも観測史上最高の積雪を記録しました。この豪雪により、県内各地ではパイプハウス等の倒壊など、県内農業に甚大な被害が発生しました。JA長野中央会を窓口を集約した3月13日(木)現在の県下被害状況は、園芸用などのパイプハウス約1万棟、畜産・酪農の畜舎等関連施設では113棟に被害が生じました。被害施設の再取得価額の見積もり額は、約87億円強に上っています。平成26年度のシーズンインを控える中で、今年度の農業生産への影響が懸念されるとともに、将来的な県内生産基盤の衰退が懸念される事態となっています。

このような中、JA長野県グループでは緊急時対策本部を立ち上げ、被害状況の把握に努めるとともに、早期の復旧と県内生産基盤の維持に向け、全組織が一体となって取り組んでいます。全農長野県本部でも災害発生当時から経済事業面を中心に、一般的な雪害対策に取り組んでまいりました。

2月に入り、2月7日から9日にかけて、更にその翌週14日から16日にかけて日本列島南岸を急速に発達した低気圧が通過したことに伴い、関東甲信地方で記録的な大雪に見舞われました。特に14日から16日にかけて降った大雪に伴い、関東甲信地区の高速道路を始めとする主要幹線道路の通行止め、列車の運休が相次いだため、人の往来や物流に混乱が生じ、長野県内でも道路上や集落の孤立が発生しました。こうした中、

全農長野県本部では、災害時における県との防災協定に沿って、交通障害により孤立してしまった皆さんへの飲食の提供を行いました。

県本部事業にも障害が生じ、販売部門では、きのこをはじめとする青果物の出荷に支障が生じました。このため販売各部署では、急遽顧客への納品スケジュールを組み替えるなどし、産地出荷の混乱の低減に努めました。購買部門ではA・コープ店舗等への納品の停滞や、石油関係では大型ローリー車による燃料油輸送

がストップしたことにより、県内S店舗への供給が一部出来なくなりました。このため小型のローリー車を活用し、数量を制限しながらSS店舗への供給を継続して、農業生産用燃料を含めた燃料油の供給継続に努めました。販売事業、購買事業ともに、こうした輸送網の障害に伴う様々な対処は、道路や鉄道が復旧して物流が正常化するまで続けられました。

❖ 雪害発生以降から現在までの対応

2月17日、降雪に伴う県内産地の被害状況が報告されはじめ、パイプハウス等農業施設への甚大な被害が想定されたため、JA長野県グループでは「緊急時対策本部」を立ち上げ、被害状況の把握に努めるとともに対処の検討に入りました。その後、県内各地で被害状況の調査が進むにつれ、被害数字は拡大することとなりました。

被害状況は日を追う毎に拡大し、短期的に全ての原状回復を目指すことは難しい規模となりました。このため先ず、平成26年度の農業生産への影響拡大を食い止めること、特に

県内全体の野菜種子・苗、水稻苗の確保など、今年度生産の維持を緊急の課題として取組みを行いました。パイプハウスなど被害施設についても、現在、被害状況や施設利用のスケジュールなどに応じ、JA毎に復旧に向けた作業が開始されています。全長野県本部では他の連合会・県本部等と共に、復旧に向けた労務支援に協力させて頂くなど、JA長野県グループを上げて復旧に向けた取組みを行っています。

❖ 今後の対応について

大槻全長野県本部運営委員会会長（各県連・県本部共通会長）の指示事項「今回の雪害が将来的な長野県産地の生産意欲を削ぐものとなっではない」を合言葉に、現在もJA長野県グループを上げて長野県産地の生産基盤維持に向けた対処に努めています。

最も被害件数の多かったパイプハウスの再建用部材の確保について、業界の状況として短期的に県内の再建必要数に見合った数量を確保することは難しい状況です。このため、「緊急時対策本部」では県内の再建

意欲に出来るだけ見合った供給に向け、農政運動も視野に入れて国や業界への働きかけを行っています。また、再建に関わる資金的な支援について、全長野県本部では、国や市町村、更にJAグループが実施する経営共済事業を補完する支援策として、今般の雪害に関わる特別要領を新たに制定し、JAで実施される対策への支援策を講じてまいりたいと考えています。

平成26年の当初から、私たち産地には非常に厳しいスタートとなりました。しかし、全ての産地が出来るだけ早期に元の状態に戻り、以前にも増して旺盛な生産意欲をもって活力ある「農業県信州」が継続出来ますよう、全長野県本部はJA長野県グループの一員として今後も精一杯努力して参りたいと思います。

（総務広報課）



JA長野県グループによる労務支援



雪の重みで支柱が曲がったパイプハウス



ハウスに積もった雪で潰されたイチゴ

春の農作業シーズン到来！安全啓発活動もスタートします ～安全シールでの注意喚起も進めます～

生産資材事業推進協議会と全長野県本部では、春の農作業シーズンの到来に合わせて、農業機械使用の安全啓発活動に取り組めます。

本年は新たな取組みとして「安全シール」を用意しました。納品・修理整備や農家訪問など様々な機会を捉えて、できるだけ多くの機械に貼り付けて、日常的な注意喚起をはかって参ります。

もう一つの新たな取組みとして、JA農業機械サービスカーに「農業安全マグネットシール」を装着する予定です。農作業中の、まさにリアルタイムな訴求を目指して「走る啓発活動」を展開していきます。

その他には、ラジオスポットCMの放送、啓発ポスター・のぼり旗の掲示、チラシの配布な

ど、継続的に取組んで参ります。

また7月には、農機＆資材フェスタが長野市エムウエーブにて開催が予定されています。5千人にも及ぶ来場者の方々に向けて、インパクトのある啓発活動、イベントづくりに努めたいと考えています。

▼農業機械課



新たに作成した安全シール

中古農機需要が拡大中！

時代の要請に応え、「第30回JA東信地区中古機フェア」を開催

農機専門部会東信支部では3月8日(土)に、JA佐久浅間基幹農機センター（小諸市）で「第30回東信地区農業機械中古機フェア」を開催しました。今回で30回目の節目となるこのフェアは、中古機需要の拡大とともに多くの方で賑わいをみせました。東信地区では定着したイベントになっており、開場を待ち望んだお客様が朝早くから行列をつくりました。

今回、総来場者は173名にのぼり、東信地区JAや農機メーカーのご協力のもと、トラ

クターや田植機を主力に合計129台が出品されました。そのうち、合計56台が成約となり、成約金額は1,296万円で計画・前年ともに上回ることでございました。特にトラクター、田植機、バインダー、ハーベスタ

が人気で数多く成約になりました。今後中古農機需要がますます見込まれる中で、多くの農家に力添えができるよう、来年度もこの「JA東信地区中古機フェア」を引き続き開催していきたいと考えています。



開場を待つ来場者



多数の中古機が並ぶ会場



展示品に見入る来場者

アルストロメリアの県下出荷規格 統一事業の成果を確認

「JA長野県アルストロメリア合同産地フェア」で高い品質評価

全農長野県本部野菜花き課は、2月から3月の延べ6日間、「JA長野県アルストロメリア合同産地フェア」を開催しました。これは、平成21年度からすすめてきたアルストロメリアの県下出荷規格統一事業の成果として、県内生産JAの協賛により重点実需者の店頭での合同産地フェアを開催し、消費地における品質の検証と一般消費者に向けた消費拡大と販売促進を行ったものです。今回初めての取り組みでしたが、一般消費者・バイヤーともに品質評価が高く、同事業の成果が確認できました。



2/8～9 (株) ユナイテッドベジーズ
花ステーション川崎店



2/15～16 (株) スーパー生花店 安茂里店



3/8～9 (株) ユナイテッドベジーズ 花ステーション市川店

フェアは、2月8日(土)～9日(日)および3月8日(土)～9日(日)に東京地区2店舗、2月15日(土)～16日(日)に県内4店舗で開催しましたが、2月15日～16日は降雪による交通障害のため、産地からの販売応援がいただけませんでした。3月の開催は好天に恵まれ客足も伸び、好調な売れ行きとなりました。

今後は、同品目による継続した合同産地フェアの開催を更に推進するとともに、トルコギキョウや他品目、もしくは県内他産地が連携した販売促進企画の開催を進めていきたいと考えます。

活力と未来ある農業発信基地へ

「JA洗馬本所竣工」

耐震・老朽化等多くの課題を抱えていたJA洗馬本所と農業生産資材倉庫が完成しました。

本建設の計画にあたっては、メインテーマ「活力と未来ある農業発信基地」から、4つのサブテーマ「農業再生」「求められる農業資材店舗」「自然・環境・地域との連帯感」「職場の機能性」を掲げ、組合員と職員の想いによる設計が構築されました。

建物の特徴としては、『農業振興の発信拠点』として、事務所機能を全て一階に集約し、組合員が利用し易い顔が見える空間構成としました。『地域農業のシンボル』となる外観は、アースカラーの茶色と夢のある白を基調としました。『自然との調和・環境問題への配慮』については、太陽光発電・LED照明・床下空調システム等を導入しました。『職場・機能』については、コミュニケーションを設け、職員同士の交流の場としました。

この新本所を起点に、更なるJA洗馬の発展を御期待申し上げます。

今回の設計管理は全農長野県本部施設住宅課(一級建築士事務所)が担当しました。



【建物概要】

- 本所棟
延床面積：1,685.27㎡
構造規模：鉄骨造地上2階
- 農業生産資材倉庫棟
延床面積：937.99㎡
構造規模：鉄骨造地上2階

食農教育で農業への理解を醸成

「JA長野県食農教育推進研究会でJAみなみ信州竜丘支所川路事業所が優良組織に選出」

3月5日(水)、安曇野市サンモリッツで平成25年度JA長野県食農教育推進研究会が開催されました。JA長野県グループでは昨年度、JA長野県食農教育推進ビジョンを改訂し、JAグループの総力を挙げ、食農教育を充実・発展していくこととしています。この研究会では、同ビジョンに基づきJA・生産者組織等により取り組まれている食農教育活動の優良組織を表彰および活動報告、基調講演などが行われました。

今年度の優良組織にはJAみなみ信州竜丘支所川路事業所が選ばれました。同所は、「農(栽培・収穫)と食を結ぶ」をテーマに、地元保育園が行う食育活動に沿ってJAが支援し、「食べることは生きること」その食べ物がどこからくるのか?」を子どもたちに感じてもらったり、地域の人との触れ合いも重視しながら地域の伝統食や地域の農業への関心を深めるためのプラン作りを平成18年から開始しました。「農業を物語として一通り体験させたい」と、それまでは主な作業の単発的な体験に留まっていたものを田起こしから稲刈りまで一つ一つ積み重ねて食べ物ができることを体験できる取組みを組み立てました。ここで収穫したお米は一部を「国際協力田米」

として発送し、お米と共に届けたメッセージをマリ共和国の子どもが持つ写真を見て、自分たちが育てたお米が役立っていることを実感して、「行ったこともない国、会ったこともないお友達に思いを寄せられる子に育てていただいた」という保護者からのことが印象的でした。

「食育」を一步進め、食べもののがどのように作られどこから来るのかを考え体験する「食農教育」は、これから消費者となる子どもたちに農業への理解の醸成と大切に食べることを学ぶ機会を提供します。「食べ方を知らないから買わない」という若い世代に対しては、地域と連携した取組みが年配者から若年者に「食べ方」を伝える場ともなり、地元産の消費を促す原動力にもなります。

全農長野県本部は、消費者からの安全・安心・新鮮な農畜産供給への期待に応えるべく、供給責任を果たしていきたいと考えます。



優良組織に選ばれたJAみなみ信州の活動発表

今年も開幕!

松本山雅FC開幕戦で豚汁の振る舞いとベンチコート贈呈式

全農長野県本部は3月16日(日)、ブラクティスウエアスポンサーを務めているサッカーJ2松本山雅FCのホーム開幕戦にあわせ、豚汁の振る舞いとベンチコートの贈呈式を行いました。

開幕戦での汁物の振る舞いはサポーターに恒例の行事になっており、強風の中で開場を待っていたサポーターは「いつもありがとう。とても温まります」「これを飲むとシーズンが始まったという気がする」と言いながら受け取っていました。信州ポークときのこがたっぷり入った豚汁は、1,000人分が約40分で終了するほど盛況でした。



ピッチでのベンチコート贈呈式



豚汁を受け取るサポーター

キックオフ前のピッチ上で行われたベンチコートの贈呈式では、全農長野運営委員会の芳坂副会長が松本山雅の大月社長にコートを手渡しました。大月社長は早速コートに袖を通し、スタンドを埋めた観客に披露しました。コートは選手が青色、スタッフは黒色で右胸に「三ツ山マーク」と「JA全農長野」の文字が入っています。

試合は、ホーム開幕戦に集まったサポーター14,048人の声援もあり昨年リーグ6位のV・ファールン長崎に引き分け、今シーズンを期待させる結果となりました。

季節外れのりんごに感動！きのこ汁に舌鼓！ 長野県農産物の魅力を大いにPRしました

「ふるさとの食 につぼんの食」に出展

長野県や全農長野県本部など12団体で組織する信州農産物PR協会は、3月8日(土)～9日(日)にNHK放送センター・代々木公園ケヤキ並木通り(東京・渋谷区)で開催された「ふるさとの食 につぼんの食」に出展し、農産物の試食・販売を行いました。このイベントは全国各地から自慢の食材や特産物が集結した食イベントです。

東京は、3週間ぶりに週末の天気が恵まれたこともあり、家族連れやカップルなど沢山のお客様が足を運ばれました。ブースでは長野県産りんご(サンふじ・シナノゴールド)や、きのこ、加工食品の販売を行いました。天候も後押しし、今年度のPR協会イベントの中では、最も良い売れ行きとなりました。

特に、きのこはぶなしめじ・エリンギ・えのきたけ・やまなめ・柿の木苺を販売しましたが、普段スーパーで見かけることの少ない柿の木苺や、やまなめに興味を示すお客様が多く、「どのようなきのこなのか?」「どんな食べ方をするか?」と質問しながら買っていました。りんごはシナノゴールドとサンふじの試食販売を行いました。こちらも好評で「今試食した品種のりんごをちょうだい!」「この時期にこんなおいしいりんごがあるの?」と感動した様子で、次々と自分の好みのりんごを買っていました。りんごは、2日間で、合計2,300個ほどが売れました。また、2日目に、東日本大震災のチャリティーイベントに参加し、きのこ汁を限定200食で出品し、多くのお客様に長野県産のきのこ汁をお楽しみいただきました。

全農長野県本部は、今後も県内農産物のPRに取り組む、様々なイベントの場で一般消費者向けに長野県農産物の魅力をPRしていきたいと思っています。



どんな食べ方がおいしいの? りんごの試食

信州のおいしい「食」でスポーツを応援

「全農日本カーリング選手権大会」

3月2日(日)から9日(日)の8日間、軽井沢アイスパークで「第31回 全農日本カーリング選手権大会」が開催されました。この大会は全農が特別協賛しており、長野県本部はMVP賞の提供と会場でのおにぎり・豚汁・きのこ汁の配布に協力しました。8日(土)におにぎりや豚汁、9日(日)におにぎりときのこ汁を合計400人分配布しました。配布をはじめると観客・スタッフをはじめ、試合が終了した選手も列に並び大盛況でした。

配布をお手伝いいただいたのは試合に出場していたチーム軽井沢の皆さんで、選手と観客の皆さんが同じテーブルで会話をしながらおにぎりを食べるなど、選手との距離の近さを感じました。

優勝チームのSC軽井沢(男子)と中部電力(女子)には長野米1トンが、MVP賞の両角選手(SC軽井沢)と藤澤選手(中部電力)には信州プレミアム牛肉と信州ポークのセットが贈呈されました。

全農はJOCオフィシャル国産農畜産物パートナーとして、豊かでおいしい「ニッポンの食」で選手を応援しています。



配布を手伝っていただいたチーム軽井沢のみなさん



豚汁を受け取る中部電力の選手



おにぎりに並び列

人事異動

全農長野県本部(3月7日付)

▽長野県本部部長(副本部長 高橋直志)
▽副本部長(管理・畜産担当)(総合企画部長) 真島茂夫
《部長級》
▽業務点検・コンプライアンス部(総合企画部監査主任者) 丸山 修

▽総合企画部長(同副部長 佐藤正彦)
▽総合企画部企画課 生活部付 柳沢博仁
▽管理部長(同副部長 湯本 豊

▽生産購買部長(同副部長 松田正隆)
▽畜産酪農部長(同副部長 山崎 進
▽畜産酪農部畜産課 同部長 吉川 浩

▽生活部長(南信事業所長 内田正俊)
▽生活部付(同部長 齋藤俊幸
▽東信事業所長(大阪販売事務所長 三石則孝

▽南信事業所長(JA長野県営農センター次長 荻原正雄)
▽中信事業所長(同次長 内田信一
▽北信事業所長(東京販売事務所長 宇都宮正喜

▽総合企画部付(生活部付 春日俊朗)
▽総合企画部付(東信事業所長 石谷雅志
▽管理部付(中信事業所長 倉沢俊朗

▽生産販売部付(北信事業所長 武田幸一
▽生産販売部付[出向先変更](同部付 中村敬一
▽生活部付(管理部長 滝沢新吾

▽A・コープ事業部付(生産販売部付) 春日 勉
▽全農グループ会社統括部(生産購買部長 山岸修治
《副部長級》

▽総合企画部副部長兼情報システム課長(同課長 齋藤千秋)
▽管理部副部長兼人事課長
(A・コープ事業部副部長兼管理グループマネージャー) 山崎邦雄

▽管理部副部長兼経理課長(同課長 北村 実
▽生産販売部副部長兼米穀課長(同課長 武井浩二
▽生産販売部副部長兼果実課長(同課長 片桐雅樹

▽生産販売部副部長(同課長 青木栄次
▽生産販売部副部長兼営業課長(同課長 竹内 聡
▽生産購買部副部長兼生産資材課長(同課長 小川郁男

▽生産購買部副部長兼農業機械課長(同課長 村山 勝

▽生産購買部副部長兼施設住宅課長(同課長 久保田昭二)
▽畜産酪農部副部長兼畜産課長
(同部JA中信畜産酪農センター長 平林 務

▽生活部副部長兼生活課長(同課長 伊藤隆史
▽生活部生活課まごころ宅配センター(北信事業所次長) 倉島清一
▽A・コープ事業部副部長兼企画グループマネージャー
(全農生活リテール部 宮澤 蒼

▽中信事業所次長兼営農資材課長(東信事業所次長 永井俊幸
▽中信事業所次長兼生活課長(同次長 南信生活課長 征矢有一
▽北信事業所次長兼生産販売課長(同課長 金井久雄

▽東京販売事務所長(生産販売部副部長) 嵩田武司
▽大阪販売事務所長(東信事業所野辺山駐在所長 岡村達雄
▽畜産酪農部付(畜産酪農部副部長 依田秀樹

▽生活部付(生活部副部長 兼 隆
《課長級》
▽総合企画部企画課長(全農法務コンプライアンス部 佐藤利久

▽JA長野県営農センター 農業振興グループ長(同センター付) 武井芳郎
▽生産販売部野菜花き課長(南信事業所生産販売課長 小澤卓夫
▽生産販売部塩尻青果集品センター長(東信事業所生産販売課長 佐藤勇人

▽生産購買部包装資材課長(生活部SS協同経営課長代理) 青木澄人
▽畜産酪農部JA中信畜産酪農センター長
(同SPF豚繁殖センター長 佐々木俊幸

▽畜産酪農部酪農課長(管理部人事課長代理) 西澤孝典
▽生活部燃料・ホームエネルギー課長(東北信事業所生活課 和田 敏
▽A・コープ事業部管理グループマネージャー(同部付) 林 明寿

▽A・コープ事業部店舗運営グループマネージャー
(同部企画グループマネージャー) 依田 稔
▽A・コープ事業部生鮮グループマネージャー
(生活部生活課まごころnetセンター長 工藤政文

▽東信事業所生産販売課長(生産販売部営業課長代理 長谷川孝治
▽東信事業所野辺山駐在所長(名古屋販売事務所次長 岩崎直樹
▽東信事業所営農資材課長(生産購買部包装資材課長代理 森田陽一

▽東信事業所生活課長(生活部付 池田伸一
▽南信事業所生産販売課長(生産販売部果実課長代理 電野 竜
▽南信事業所生活課長(A・コープ事業部生鮮グループマネージャー) 風間貞良

▽中信事業所生産販売課長(生産販売部塩尻青果集品センター長 浅倉久寿
▽北信事業所生活課長(生活部付 山田展晴

平成26年度機構・要員・分掌について

I. 基本的な考え方

1. 県本部中期事業ビジョン(平成25～27年度)並びに中期事業計画に基づき、長野県JAグループの経済事業領域一体化体制の構築をはかるため、県本部機能の発揮と業務の効率化を目指した事業体制とするとともに、JA長野県経済事業改革の着実な実践と県本部総合経営管理体制が堅持できる機構・要員とする。

2. 長野県の地域特性を活かした生産振興の強化と担い手支援対策にもとづく産地基盤の維持・形成のため、県及びJAグループの連携強化がはかれる体制とする。

3. 事業・経営環境の変化に対応する迅速な意思決定ができる業務体制を確立し、専門的業務の継続性および事業の効率性の維持強化をはかるため、要員体制は、多様な雇用・就労形態によるフレキシブルな効率的体制とする。

II. 機構・分掌の主な変更内容

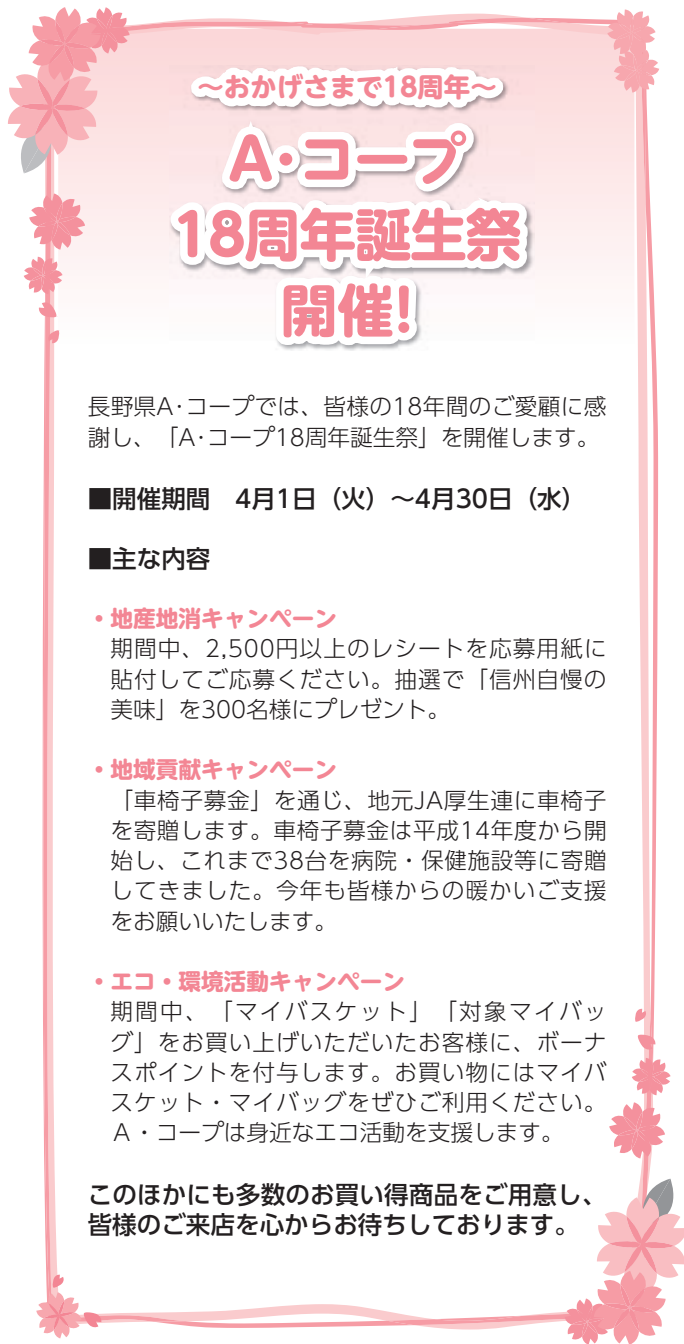
(1)業務効率化のため、『施設住宅課南信駐在』を『施設住宅課中信駐在』に集約し、名称を『施設住宅課南信駐在』に改称する。

(2)全農の組織図細則に基き、『中央家畜市場』を機構に位置づける。

(3)JAガス小売事業の支援強化をはかるため、燃料・ホームエネルギー課にLPGガスセンターを設置し、LPGガス監視センターを同ガスセンター内に置く。

(4)まごころ宅配事業の認知度アップをはかるため、生活課『まごころnetセンター』を『まごころ宅配センター』に改称する。併せて、『生鮮ヒッキングセンター駐在(松本)』を『まごころ宅配センター松本駐在』に改称する。

(5)生活燃料事業を取り巻く環境変化に迅速に対応し、JAへの推進力強化のため、『東北信生活課』『中南信生活課』を廃止し、各事業所に生活課を設置する。



～おかげさまで18周年～

A・コープ 18周年誕生祭 開催!

長野県A・コープでは、皆様のご愛顧に感謝し、「A・コープ18周年誕生祭」を開催します。

■開催期間 4月1日（火）～4月30日（水）

■主な内容

・地産地消キャンペーン

期間中、2,500円以上のレシートを応募用紙に貼付してご応募ください。抽選で「信州自慢の美味」を300名様にプレゼント。

・地域貢献キャンペーン

「車椅子募金」を通じ、地元JA厚生連に車椅子を寄贈します。車椅子募金は平成14年度から開始し、これまで38台を病院・保健施設等に寄贈してきました。今年も皆様からの暖かいご支援をお願いいたします。

・エコ・環境活動キャンペーン

期間中、「マイバスケッ」 「対象マイバッグ」をお買い上げいただいたお客様に、ボーナスポイントを付与します。お買い物にはマイバスケッ・マイバッグをぜひご利用ください。A・コープは身近なエコ活動を支援します。

このほかにも多数のお買い得商品をご用意し、皆様のご来店を心からお待ちしております。

JA全農長野の事業現況

平成25年度2月末部門別実績表

(単位:百万円,%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	18,372	95	101
果	実	32,448	102	92
野菜	花き	63,626	107	123
野菜種苗センター		186	95	102
きのこ		20,917	92	103
営業		12,917	100	109
生産販売部計		148,466	101	108
包装資材		9,445	102	100
生産資材		13,559	109	110
農業機械		6,780	110	110
施設住宅		4,438	117	80
生産購買部計		34,223	108	102
畜産		10,986	105	103
三岳平谷牧場		200	105	103
SPF繁殖センター		245	98	100
酪農		15,811	111	104
ハケ岳牧場		248	105	113
畜産酪農部計		27,490	108	103
燃料・ホームエネルギー		31,447	110	101
SS協同経営		11,469	109	104
生活		13,086	95	97
生活部計		56,002	106	100
A・コープ事業部計		28,311	102	103
長野県本部計		294,492	104	105

編集後記

平成26年度がスタートしました。昨年度は春の凍霜害に始まり、今年2月の豪雪災害まで、様々な災害に見舞われた1年でした。その影響が残る中で迎える新年度です。

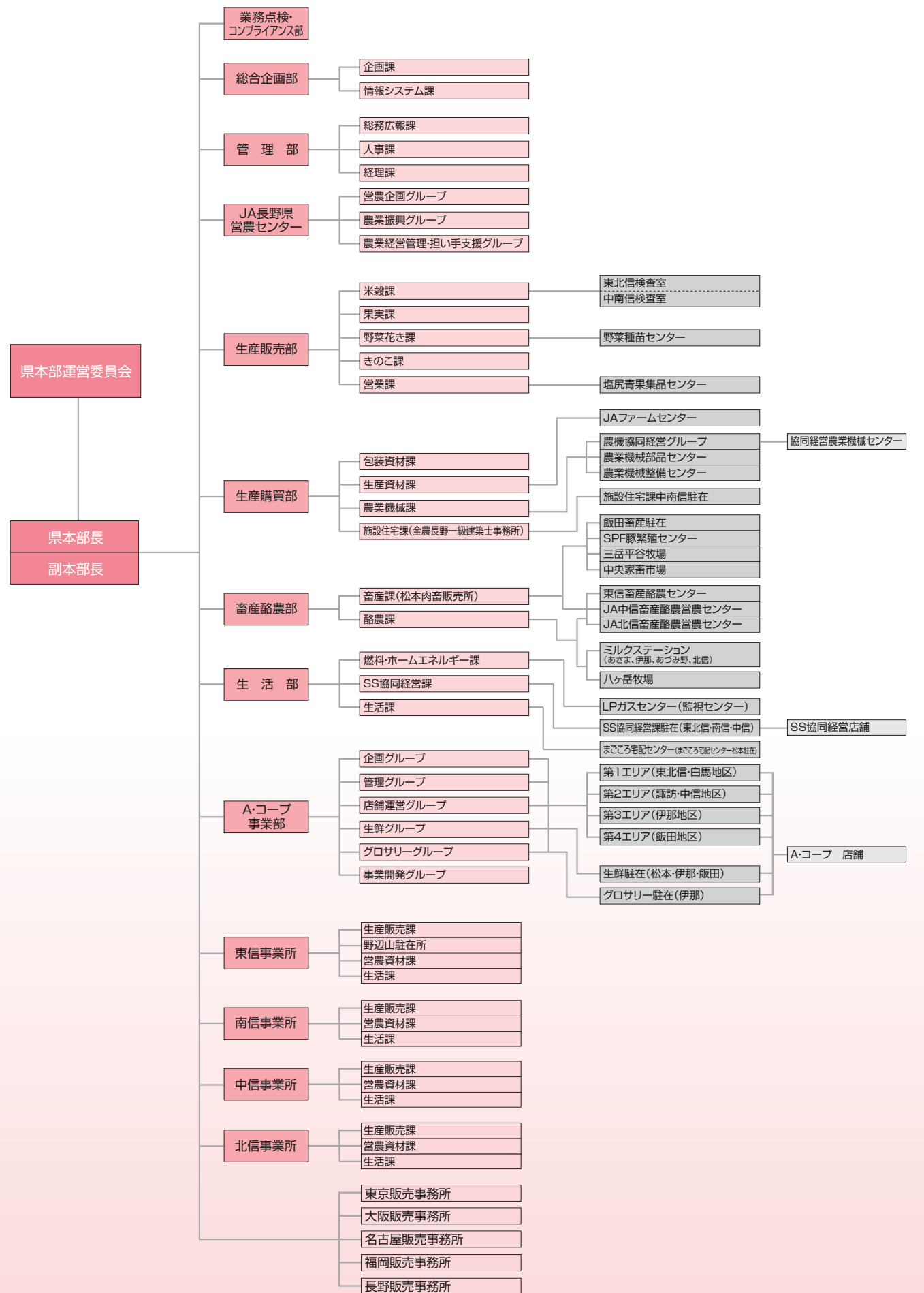
大雪当時、県外在住の知人から様子窺いの電話がありました。彼は当初慣れた長野県だからと、もっと軽微な被害を想像していたようです。当時は山梨や東京都内の大雪報道が目立っており、さもありなんと思えます。情報は受け手の反応を見ると、言い換えればコミュニケーションに発展させることで真意も深く伝わるのだと思います。本誌は所謂『広報誌』ですが、皆さんとのコミュニケーションの起点になれば、とも思います。

件の知人と久しぶりの電話「雪道が怖いから長野には電車で行くわ・・・」

「いや、もう道には無いら・・・」情報は頻度も重要だと思えました。

(N)

平成26年度 全農長野県本部機構図





長野県 A・コープ

信州



オリジナルブランド ポーク

グリーンリーダー4月号 (毎月発行) 2014年3月20日発行
発行/JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3
第419号
発行人/高木幸一郎 印刷/PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



JA全農長野が認定した指定農場のみで限定生産された、
こだわりの信州SPF豚が「信州Aポーク」です。
愛情込めて育てられた、上質な豚肉をぜひご賞味ください。



JA長野県・信州ポーク生産販売協議会



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

